

看護師の立場から感染を防ぐには

城西病院「院内感染対策委員会」の勉強会が10日、城西総合健診センターで開かれました。講師に聖路加国際病院のQIセンター感染管理マネジャーの坂本史衣さんを招いて、「医療関連感染を防ぐ一普段の対策・冬季の対策」をテーマに講演しました。勉強会は、坂本さんが医療現場の最前線で看護師の立場として医療関連感染に取り組んでいる現状を紹介しながら講演。会場には120人を超す職員が介護、看護の職場を超えて参加し、熱心に講演を聴き、質問をしていました。

坂本さんは、感染の予防策に対する手指衛生の大切さについて、強く言及。スイスの病院では、手指消毒ボトルをベッドサイドに置くことにより、手指衛生実施率が48%から66%に向上、院内感染発生率は16.9%から9.9%に減少した実例や、聖路加国際病院での取り組みと効果について実例を挙げて紹介しました。

手指衛生については手指消毒と手洗いに分け、「患者に触れる前、患者に触れた後、手袋着用の直前、手袋着用の直後、患者周辺の環境に触れた後の瞬間に実施。消毒は短い時間で実施でき、保湿剤も入っているので手が荒れにくく、手指消毒を優先的に行った方がいい」と述べました。また「手を洗う場合は、手指に目に見える汚染がある、嘔吐・下痢のある患者やその周辺環境に触れたあと」と話しました。

このほか、医療従事者が頻繁に触れる手すりやスイッチ、医療機器ボタン、手すり、テーブルなどの消毒の必要性、インフルエンザワクチン、医療用手袋やマスクの使い方、ノロウイルスへの対

感染対策勉強会

聖路加国際病院の坂本氏を招き

応などを細かく丁寧に説明しました。

「手指衛生が感染予防に非常に重要で、肝となっている」と強調する坂本さん。

講演終了後は多くの質問が寄せられました。

「手指衛生をどうすれば徹底させられるのでしょうか」という質問に、坂本さんは「トップが強いスタンスで意思表示し、職員の義務であるという意識付けをしないといけない」と答えました。このほかノロウイルスの発生した場合の患者の対処法や、インフルエンザに罹った職員の対応など、丁寧に質問に答えていました。

平成27年2月12日



聖路加国際病院QIセンターの坂本史衣感染管理マネジャー

